

奈良県指定文化財調査票

調査日	2020 年	8 月	22 日	記入者	東辻 裕子	
調査者名	石井	亀田	神野	鈴木	中西	東辻
	前田					

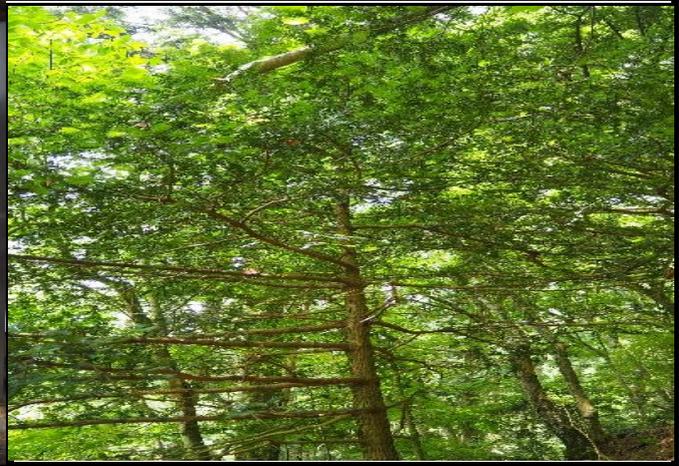
文化財名	龍泉寺の自然林					
種類	<input type="checkbox"/> 史跡	<input type="checkbox"/> 名勝	<input checked="" type="checkbox"/> 天然記念物	<input type="checkbox"/> 有形民俗文化財	<input type="checkbox"/> その他 ( )	
指定年月日	1987年(昭和62) 3月10日					
所在地	吉野郡天川村洞川674-1・2					
所有者 管理者	龍泉寺					
員数						
時代区分						
樹木の場合	(樹木名) 下記、その他参照			(樹齢) 不明		
案内板の状況	有。 県教育委員会より説明板が設置されている。					
公開	自由					
保存状態	<input type="checkbox"/> 非常に良い	<input checked="" type="checkbox"/> 良い	<input type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> 悪い	<input type="checkbox"/> 非常に悪い	
	補足 ( )					
当面の課題	林の中を遊歩道が通っており、整備されていて特に問題はないと思われる。					
今後の課題	説明板の解説文の前半部分に専門用語が含まれており難しい文章なので、誰が読んでも分かるような解説文を望む。					
その他 (由緒など)	龍泉寺の裏山の海拔850mから990mにかけて広がるモミを主とした自然林。下部の照葉樹林(常緑広葉樹林)と上部の夏緑樹林(落葉広葉樹林)の中間的な位置の中間温幼林で太平洋側にのみ見られる極相林である。モミのほかにつが、スギ、イタヤカエデ、トチノキ、イヌブナ、下層にはスズタケ、カヤ、イヌガヤ、クロモジ、アワブキなどがみられる。中間温帯林として生態学的だけでなく環境保全上も重要である。(説明板より引用)					
コメント	モミの木はマツ科モミ属の常緑針葉樹で、北半球の寒冷地から温帯にかけて約40種が分布している。日本では本州中南部から四国、九州、屋久島に自生する。名前の由来は風にもみ合うところから「揉む」を語源とする説と、神聖な木で信仰の対象となっていることから「臣木(おみのき)」を語源とする説などいくつかある。 中間温帯林として生態学的に極めて重要なこの自然林を恒久的に保存してほしいと思う。					

奈良県指定文化財調査票(写真)

調査日	2020 年	8 月	22 日	記入者	東辻 裕子	
調査者名	石井	亀田	神野	鈴木	中西	東辻
	前田					

文化財名	龍泉寺の自然林
------	---------

説明板	モミの木
-----	------



自然林内部	遊歩道の様子
-------	--------



かりがね橋より	自然林外側
---------	-------

